

1. 開成町の小学校における英語教育の現状と課題について問う

次期学習指導要領の施行により 2020 年度から小学校の英語教育が 5～6 年生で教科化、3～4 年生で外国語活動が開始される。文部科学省「教育課程部会審議経過報告」（平成 18 年 2 月）において国家戦略として取り組むべき課題として、英語教育が挙げられてから 12 年が経過している。その間アジア 3 か国（中国、韓国、台湾）に 10 年以上の遅れをとっているのが現状である。新指導要領により教師が一方的に英語の単語や文法などの知識を伝達する授業から、生徒が自分自身で英語をしっかりと使う授業にしていこうというのが大きな変化である。グローバル化の進展が加速される中で未来を担う子どもたちが国境を越えて活躍できる英語教育を着実に進めることは最優先の課題である。外国語指導助手（ALT）の活用は全国の平成 28 年度実績で 5～6 年生で 61.7%と積極的に行われているが、授業の主体はあくまで担任教諭でありその英語力向上が生徒の英語力の向上に直結するものとする。

そこで、次の質問をする。

- ① 開成町の小学校教諭の英語を教える力をどのように評価しているのか。
- ② 課題があればその解決のための具体策は。
- ③ 外国人、外国文化にふれる機会を増やすことはどう考えるか。